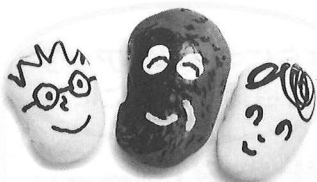


認知症ケアにおいて 介護職と医療職は 「車の両輪」



笑顔を生む
認知症ケア
群馬大学医学部保健学科
山口晴保



「笑顔を生む
認知症ケア」とい
うテーマで連載を
担当することにな
りました。医師に
なって32年、脳を
調べる「神経病理
学」から始まり、症

状を見る「神経内科」でアルツハイ
マー病の病理研究を始め、その後、
理学療法士や作業療法士を育てる講
座に移った後も病理研究を続けてき
ました。

私は認知症ケアにおいて「アウト
カム（成果）は笑顔」を信条にして
います。特に、ここ5年間は認知症
の進行スピードを緩めるための「脳
活性化リハビリテーション」（以下、

脳活性化リハ）の研究に取り組んでい
ます。「脳活性化リハ」は、認知症高齢
者が楽しめる活動を通して笑顔を生
み、会話が安心を、役割を演じるこ
とが生きがいをもたらすことが原則
です。つまり、認知症であつても笑
顔で前向きに生きようとし、生活力
が向上することを目標にしています。

これまで認知症について多方面か
ら研究を重ねてきました。その結果、
医学的な視点はもちろん、脳の可塑
性（良くなる力）に着目するリハの
視点、認知症高齢者に対して介護職
がどのように対応するかという介護
の視点も得ることができました。

そのなかで気づいたのは、認知症
には「包括的医療・ケア」が必要だ
ということ。つまり、医療職と
介護職との協働が大切であり、介護
職も医療のことを十分理解し、また
医療職も介護のことを十分理解する
必要があります。介護職の冷静な観
察眼と適切な報告があつて、はじめ
て適切な医療が提供されます。認知
症のケアにとって医療職と介護職は
まさに「車の両輪」であり、お互い
連携しながら仲良く動かないと真つ
すぐ進まないのです。

認知症高齢者が「自己実現」して

自分らしく生きることへの支援を、
介護に携わる人の多くの方がめざし
ていると思います。一方、医療職は
「認知症は治らない病気」「認知症の
人が入院すると大変」など、高齢者
の尊厳とはほど遠い状況にあること
が多いようでした。しかし、日本認
知症学会では、「認知症の診療、介
護・ケア・社会的資源を含めた広範
な知識と技術を有した」専門医の認
定をする取り組みを始めました。私
は、この専門医向けテキストの「認
知症ケア」の項に携わりましたが、
専門医に認知症ケアの大切な点を理
解してほしいという思いを込めなが
ら執筆をしました。

本連載では、認知症に対する誤解
を解き理解を深めるため、認知症ケ
アに生かせる笑顔のメカニズムや効
用、コミュニケーションと神経心理
学のかかわり、認知症に有効な薬の
知識などをやさしく紹介し、読んで
笑顔の出るような内容にしていきたく
と思います。

はやし 群馬大学医学部保健学科
1976年、群馬大学医学部保健学科基礎理学療法学講座教授に就任。群馬
県地域の地域リハビリテーション連携システムづくり、介護予防、認知症介
護研究の普及に尽力。

